

C 舌形（ぜっけい）

舌形とは舌体の形状のことであり、以下のようなさまざまなものがある。

1. 老嫩（ろうどん）

老嫩は、虚と実のいずれが主体であるかを判断する目安として、臨床的に非常に重要である。

「老」とは、舌面の紋理がきめ粗く（粗糙）、舌体が堅くしまった感じ（堅斂）で、色が濃く（蒼老）見えるものである。舌苔の色がどう

であれ、すべて実証が主体である。写真⑱、⑳
「嫩」とは、舌面の紋理がきめ細かくてしつとりと潤いがあり（細膩）、舌体のはれぼったくて軟らかい感じ（浮胖嬌嫩）がするものである。一般に虚証が主体である。写真㉑、㉒

『弁舌指南』に「およそ舌質の堅斂にして蒼老なるは、苔色の黄・白・灰・黒を論ぜず、病は実に属すること多し。舌質の浮胖に嬌嫩を兼ねるは、苔色の灰・黒・黄・白にかかわらず、病は虚に属すること多し」と指摘しているとおりである。

老嫩	— 実証	老（紋理粗糙・堅斂蒼老）
	— 虚証	嫩（紋理細膩・浮胖嬌嫩）



⑱ 老舌・腐苔
湿熱



⑳ 老舌・黄膩苔
湿熱



㉑ 嫩舌・胖大
陽気虚



㉒ 嫩舌・嬌
陽気虚